

教訓を生かす

災害時の教訓を生かしてほしいという先人の思いが石碑に刻まれています。その思いは、説明板や由来書があれば、今を生きる人にも分かりやすくなります。徳島県海陽町と高知県須崎市の地震津波の例をご紹介します。

■ 鞆浦の慶長宝永碑 (徳島県海陽町)

徳島県海陽町の鞆浦には高さ 3m、幅 5mほどの大岩があり、そこに慶長地震と宝永地震の時の津波の様子が刻まれています。慶長の碑文には、慶長 9 年 (1604) 12 月 16 日亥の刻 (午後 10 時) に大海三度鳴り、その後高さ 10 丈 (30m) の津波が 7 度来襲し、男女 100 余人が海に沈んだことなどが記されています。また、宝永の碑文には、宝永 4 年 (1707) 10 月 4 日未時 (午後 2 時) に地震が起こり、1 丈 (3m) 余りの津波が三度押し寄せたものの、一人の死者も出なかったが、地震後にあらかじめ津波が来ることを考えていれば避けることができるなどと記されています。津波の高さや発生時間など状況は違いますが、慶長の津波被害の教訓が生かされて、宝永の時には津波被害が軽減されたものと推察されます。〈海部町史編集部編「海部町史」1971 年など〉



鞆浦の慶長宝永碑



慶長宝永碑の説明板



(地理院地図に加筆)

■ 宝永津浪溺死之塚 (高知県須崎市)

高知県須崎市に宝永津浪溺死之塚が建立されています。宝永 4 年 (1707) 10 月 4 日、地震後に津波が襲来した時、人々は地震後に津波が来ることや避難の方法を知らなかったため、400 余人が溺死するという惨事が起こりました。それから 147 年後の安政元年 (1854) の地震で須崎はまた津波に襲われました。この時には人々は語り継がれてきた宝永の教訓を守ったため、犠牲者は少なくてすみました。それでも、間違った言い伝えを信じて、船に乗って沖に出ようとした 30 余人が溺死しました。安政 3 年に墓を改葬する機会に、宝永・安政の津波の教訓を塚に刻み、後世に残すことにより、再び津波による被害が起こらないように願ったことなどが碑に記されています。〈「宝永津浪溺死之塚由来碑」の碑文など〉



宝永津浪溺死之塚



宝永津浪溺死之塚由来碑



(地理院地図に加筆)